



特別講演 「協力・互恵・Win-Win」

中国黒龍江省人民政府副省長
于莎燕

黒龍江省は1983年から新潟県と友好関係を築き、その後、両省・県は経済貿易、科学技術、文化、教育、衛生など分野での交流と協力を深めつつ、多くの成果を上げてきた。このような相互連携・協力に基づいた互恵関係は、黒龍江と信濃川が海に流入するように、深い友好関係を有している。

黒龍江省は中国の重要な食糧生産基地であり、エネルギー、装備工業と石油化学工業の基地でもある。両省・県の交流は互いに補完性を有しており、科学技術、教育、文化スポーツ、近代農業、生態保護、観光など分野での協力可能性を秘めている。

世界経済のグローバル化や地域経済の一体化が進む中、わが省は日本との協力を非常に重視している。それは、近隣関係にあるだけではなく、協力によって互いに利益を得ることが最も重要だからである。相互連携・協力によって、自然資源の配置がより合理的になり、国際金融危機の影響から脱出できる。長年にわたって続いてきた文化交流、相互理解、友好信頼に基づく協力関係は、両省・県のさらなるWin-Win関係をもたらすことになると考えている。

現在、黒龍江省は「八大経済区」と「十大プロジェクト」の建設を全力で推進している。特に、重点発展戦略の一つとして、「北東アジア経済貿易開発区」の建設が注目されている。今後、わが省は北東アジア各国との経済貿易関係を強化し、経済貿易交流によって協力を促進し、互いに協力することで経済発展を促し、産業の相互補完性及び提携の方式を改善していこう。

また、「走出去（対外進出）」という戦略によって、条件を備えた実力ある黒龍江省の企業が海外・省外へ進出することを積極的に奨励していく。地域間の経済貿易交流と協力関係の深化を通じて、地域間の資金、プロジェクト、技術、人材の流動化にスピーディに対応し、北東アジアの経済貿易の持続的発展を推進していきたい。

北東アジア地域協力について、いくつか点で意見を述べたい。

1. 北東アジア経済発展国際会議を着実に開催していくこと

今回の会議は、新潟県・新潟市・ERINA主催による第19回目の会議であり、北東アジア各地の政界、経済界、学

界が共に協力と発展を求めることを検討する重要な協力メカニズムのプラットフォームである。会議参加者からの建設的な提案、北東アジア地域の経済貿易協力への新たな生気を期待している。この会議で更なる実務を促進し、特色・活力のある地域協力を各国・地域と共に行っていききたい。

2. 北東アジア地域間の協力を積極的に強化していくこと

地域経済は経済のグローバル化の基礎であり、各国経済の成長ポイントでもある。北東アジアは、資源と技術の優位性を持ち、工業の基盤と人材の備蓄を有しており、農業と交通の条件も良好である。北東アジアは他の地域と比類ないほどの経済発展の要素を保有しているのである。地域内において、中・ロ・日・韓などの国の外貨準備総額は3兆ドルを超えており、資本輸出条件の最も良い地域である。北東アジアは土地、森林、淡水、鉱産物、エネルギーなど世界有数の資源を保有している。地域内総人口は16.7億人に達し、世界人口の25.3%を占め、大きな潜在力を持つ消費市場となっている。また、中・ロ・日・韓はいずれも科学技術大国（もしくは強国）で、世界を先導する先進技術を有する。また、北東アジアは多く産業労働者を有しており、黒龍江省だけでも120万人を超える技術者がいる。さらに、経済のグローバル化という視点からみれば、北東アジア地域は将来的にすばらしい発展ビジョンを持つ地域になるだろう。そのため、北東アジア地域協力の強化は、我々にとって共通の戦略的選択になるべきである。

かつて、アメリカのランド研究所は、今後10～20年の間、北東アジアは世界一の経済圏へ成長する可能性が極めて大きいと予言したが、私はこの予測と判断に非常に賛同している。黒龍江省は北東アジアに面し、アジア・ヨーロッパ大陸へ扇形放射が可能である。「平等な互恵関係、多様な形式、着実に、共に発展」という原則を堅持し、多くのポイントで対外可能な経済貿易区を築き上げることに力を注ぐと同時に、域内各国との交流・協力を積極的に強化し、「Win-Win」という目標の実現に努めていきたい。

3. 日本との協力を継続的に拡大していく

黒龍江省は一貫して日本への対外開放を重視し、さまざ

まな分野で互惠・協力を望んでいる。1980年代から21世紀初頭まで、日本は黒龍江省にとって第2、3位の貿易相手国であった。しかし、近年、黒龍江省の対日貿易は下降傾向にあり、本省の貿易総額に占める対日貿易の比率は、7.1%（2004年）から、6.1%（2005年）、4.9%（2006年）、3.4%（2007年）、2.7%（2008年）へと減少してきた。現在、日本は本省にとってロシア、アメリカ、韓国、ドイツ、サウジアラビアに続く第6位の貿易相手国となっている。投資関係については、1985年から2009年6月末まで、日本から本省への投資件数は780件、実行ベースの投資額は3.79億ドルで、本省における外国投資件数と投資総額に占める比率はそれぞれ9.3%、2.18%であった。実行ベースの投資額の順位をみると、香港、アメリカ、韓国などに次いで第6位であった。

黒龍江省と日本の経済関係者がこの現状を直視し、これまでの経験と教訓を真剣に総括し、今後の発展趨勢を検討、解明すべきである。われわれは未来に目を向け、これまで以上に日本との経済・貿易協力を重視していかなければならないと考える。

黒龍江省は日本の経済発展の優位性を重んじて、以下の3点において、日本企業との積極的な協力を真摯に期待する。

1つ目に、日本はエネルギー分野において本省との協力を重視しており、石油、石炭などエネルギー資源の精密加工において大きな協力活動ができると考えられる。一方、われわれは新エネルギー、新素材開発の分野における協力を

を期待しており、循環経済、低炭素技術、低炭素経済の発展において実質的な接触を行っていくことを期待する。

2つ目に、日本はハイテク技術を保有しており、日本の企業が将来を見越して一部の民間ハイテク技術を譲渡することを期待する。

3つ目に、世界的に有名な日本企業のほとんどが中国と協力プロジェクトを有している。同時に、日本の多くの中小企業と中国、とりわけ黒龍江省との協力が大きな潜在力がある。われわれは、日本の中小企業との協力強化に期待を寄せている。しかし、多くの日本の中小企業が慎重すぎるあまり、結論を出す際に欧米、韓国の企業よりかなり遅くなるため、時機と市場を失いやすくなっている。日本の中小企業に対してはもっと果敢的になって頂きたい。また、われわれも一層行政サービスを向上させ、投資環境を改善して、様々な側面から日本側に便利な条件を提供するように努めていく。

北東アジア地域の経済発展が注目されている。域内各国間協力は一層実務的になり、経済・貿易の交流がますます活発に行われている。黒龍江省は関係国と真摯に連携しつつ、尽力していきたい。そして、北東アジア地域の友好協力、Win-Win、共存共栄関係が深化する中で、経済発展、地域住民の繁栄、地域協力の推進に向けて積極的な貢献をしていきたい。

[翻訳・文責 ERINA]